



【学校課題】

豊かな心を持ち 確かな学力の定着を目指す生徒の育成

【学校経営スローガン】

心響かせ 子どもの豊かな学びを支える学校

現状

■生徒の実態

- 【性格・行動】
- ・明朗で快活、素直
 - ・部活動に積極的参加
 - ・自主自立的行動に課題
- 【学習面】
- ・基礎基本が未定着
 - ・学習方法と内容が未定着
 - ・学習支援が必要な生徒が多い

■地域の実態

- ・市営の高層住宅群と個人住宅が混在
- ・校区内清掃ボランティアで町内会が協力的
- ・PTA、おやじの会が積極的
- ・校区が広く3小学校から入学

生活習慣の定着

学習習慣の定着

到達目標

■学力向上の到達目標

- 苫小牧市統一テスト（NRT検査）（2・3年）
→国語・数学 前年度比SS1ポイントアップ
- 全国学力・学習状況調査（3年）
→国語・数学 5年間平均比2%アップ
- 全国学力・学習状況調査（3年）
→「国語の勉強が好き」と65%以上が回答
→「数学の勉強が好き」と55%以上が回答

■学力向上を支える取組の到達目標

（生徒アンケートによる評価 12月実施）

	目標	（昨年）
① 自ら進んで学習に取り組む	80%	76%
② 教科担任の指導がていねい	100%	95%
③ 授業を真面目に受けている	100%	92%
④ スマホ使用時間を減らす努力	65%	51%
⑤ 家庭学習を増やす努力	70%	67%
⑥ 挨拶の習慣が身に付いている	95%	94%
⑦ 運動の習慣が身に付いている	70%	69%
⑧ いじめは絶対にダメなこと	100%	98%

【学校経営のキーワード】

「整える」・「揃える」・「鍛える」

学校

生活習慣を改善させる取組

1. 家庭での時間の使い方の改善（change60）の取組
 - ・目標管理、時間管理を意識し、「振り返り力」を高める
 - ・フォーサイト手帳の活用
2. 「時を守る」「場を清める」「礼を正す」の3原則を含めた基本的生活習慣の確立
3. いじめがなく、正義が通用する学年・学級経営
4. 生徒一人一人にとって心の居場所がある学年・学級経営
5. 集団の中で自分の役割を自覚し、生徒会活動や係活動に積極的に取り組む意欲の向上
6. 体力手帳を活用した運動・生活習慣（食事・睡眠）の改善
7. 情報端末利用の約束についての啓発

基本的生活習慣の確立

学校

不断の授業改善

1. 授業スタイルの統一
 - ・課題提示、生徒主体の学習活動、まとめ、振り返り
 - ・教える内容、身に付けさせるべき内容が明確な授業展開
 - ・学習内容を定着させる終末10分間の工夫
2. 学習規律の徹底
 - ・「学習のきまり」の指導を徹底→定着
3. 全教師による授業公開の実施
4. 学年教師団による全学級道徳授業の実施、道徳授業の公開
5. 生徒による授業評価の実施
6. 市・道開催の研修会への参加による指導力向上

情報交流

指導連携

学校

学習習慣を定着させる取組

1. 家庭学習習慣の定着
 - ・平日、毎日90分以上を目指す取組
 - ・家庭学習ガイダンス・宿題への取組
2. 特別支援教育支援員による個に応じた指導の充実
3. 教科担任、学習支援係による補充学習の充実（学び直しの取組強化）
4. 年間を通じた放課後学習会の実施（年80日以上）
5. 長期休業中の学習会の実施（夏季・冬季合わせて15日以上）
6. 朝読書による読書習慣の定着

確かな学力の育成

家庭

■リズムある生活づくり

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の定着
- ・テレビやゲーム、携帯電話に関する家庭のルールづくり（情報端末利用の約束促進、利用に関する指導、保護者の指導）

■家庭学習の定着

「毎日実行、始める時間を自分決定」
平日90分以上の家庭学習が目標

小学校

学校教育力向上エリアプロジェクト

1. エリアが目指す子ども像の共有～9年間の学びのつながり
2. 小中共通して身に付けさせたい力を焦点化～基礎・基本の定着
3. 基本的生活習慣の指導項目、学習規律の統一～生活リズムの確立
4. 乗り入れ授業の実施～中1ギャップの解消
5. 個に応じた特別支援教育の推進～学びの場の提供
6. 学習サポーター事業による学びの接続～長期休業中の取組

学校

特別支援教育の推進

1. 特別支援学級と通常学級との授業交流の推進
2. 授業研究等による指導方法の検証・改善
3. コーディネーターを中心とした支援方法の確立
4. 校内支援委員会による支援方法検討と適切な学びの場の提供
5. エリアプロジェクト会議事業を通じた職員研修の充実
6. 関係機関（指導室・あかり・児相・医療機関）との連携